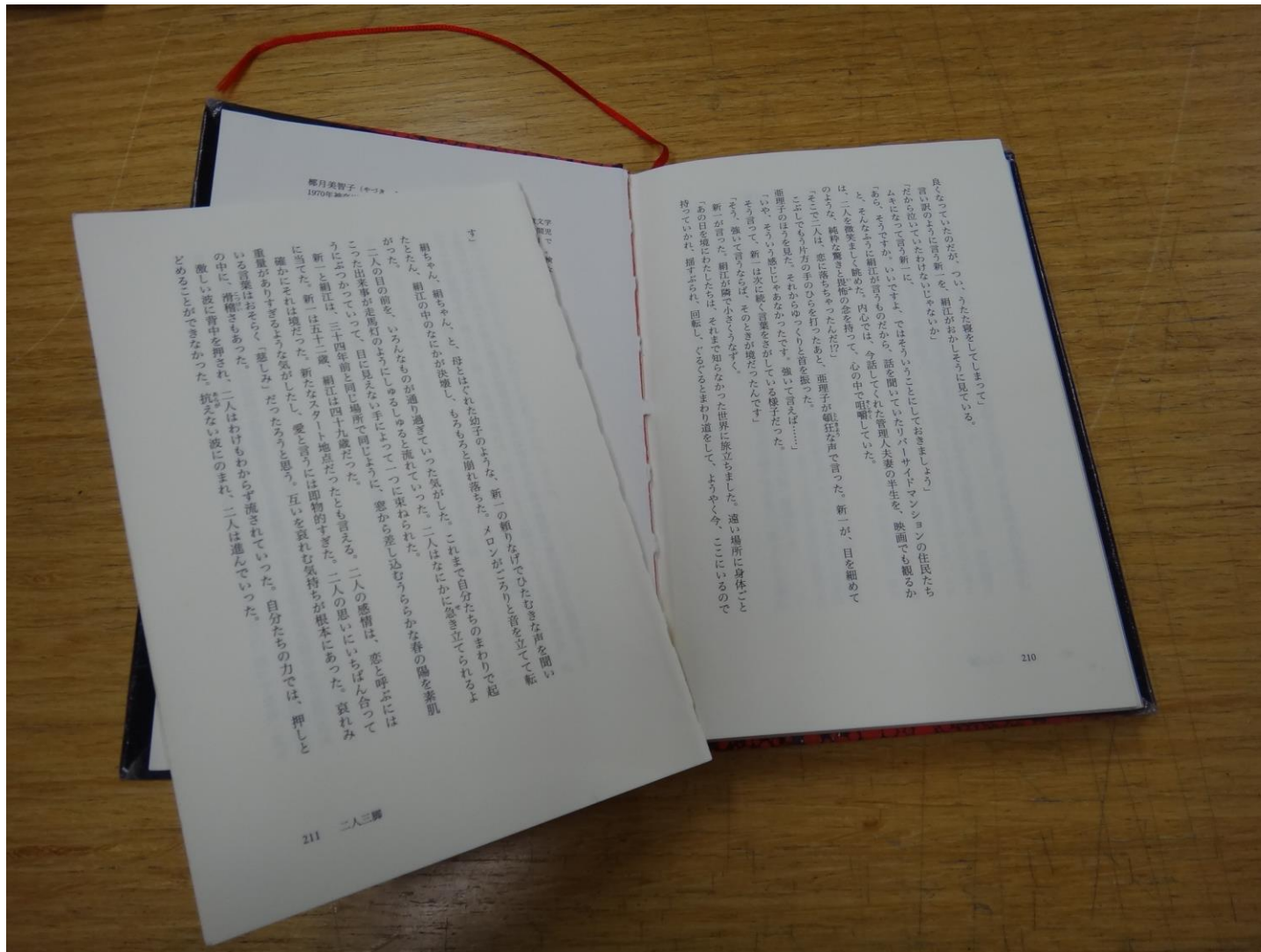
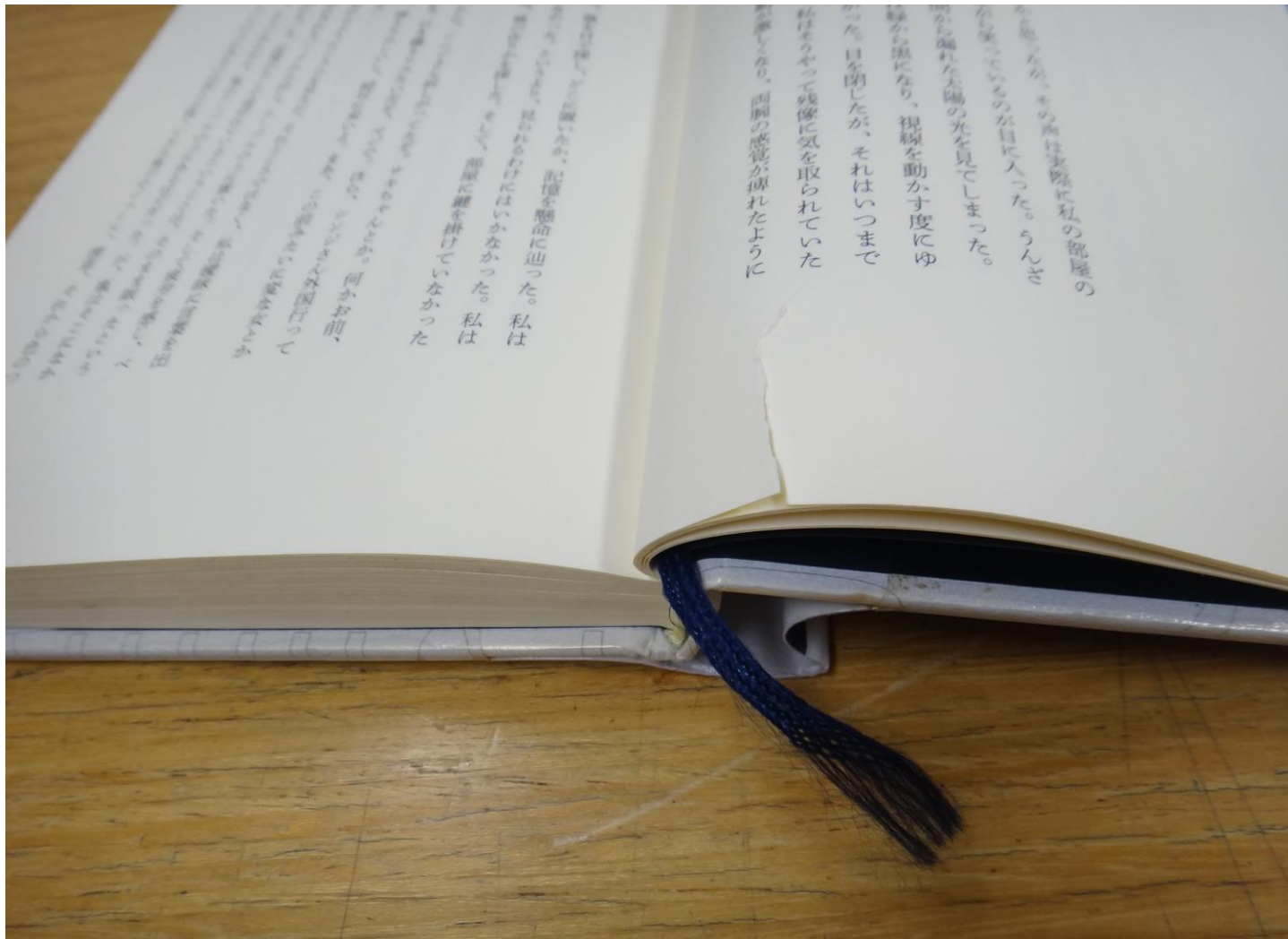


## 修理本その1 ( ページはずれ )



修理本として単行本、文庫本ともによく見られるこわれかたです。最近の本は背をのりで固める“無線綴じ”の本が多いので、利用が多い本はページがはずれやすいのが特徴です。図書館では、専用ののりを使って修理しています。

## 修理本その2 ( ページの破れ )



ページやぶれは破損の状況によって、専用のりや専用テープでの補修をおこないます。

市販のセロハンテープや液状のりは、本にとって傷みが大きくなるだけなので図書館での修理にはまず使いません。

### 修理本その3 ( 表紙と中身がはずれる )

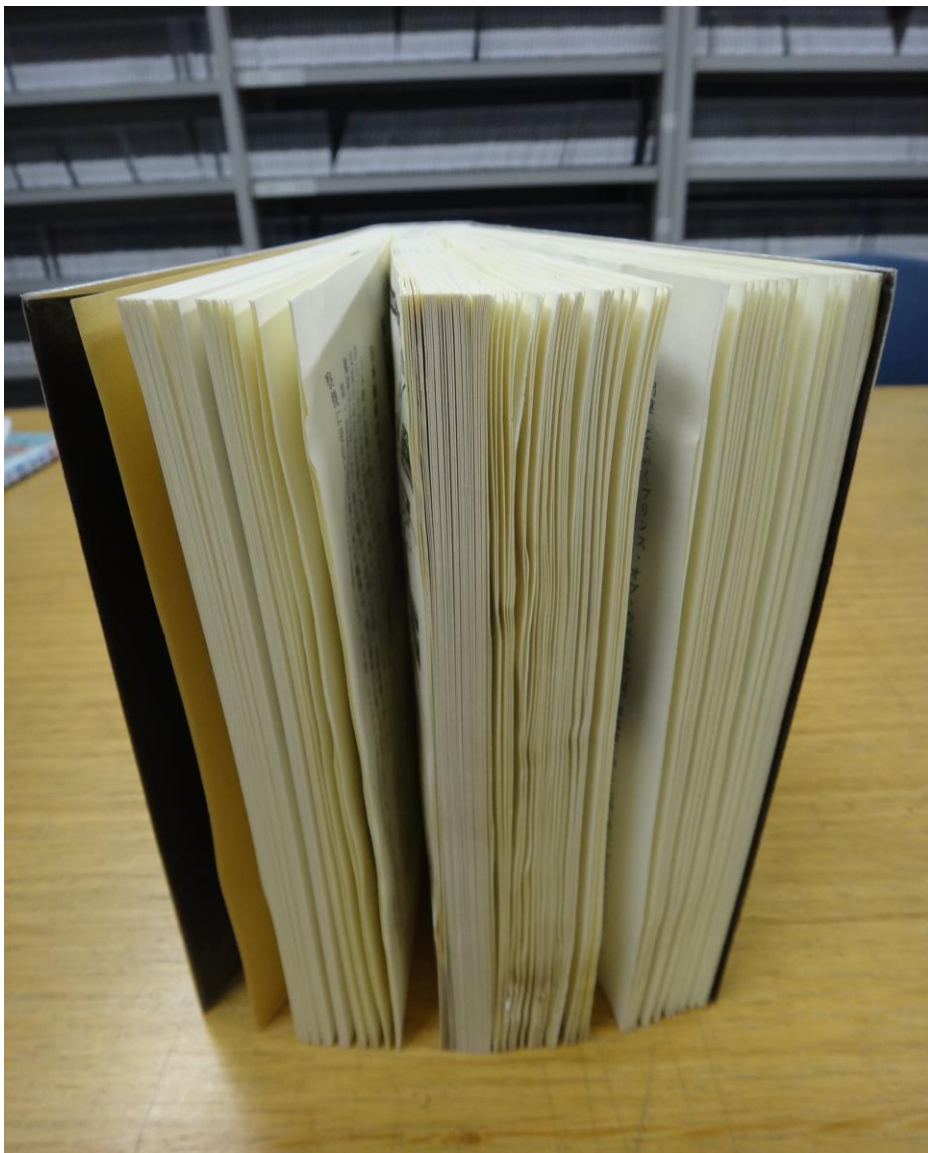


表紙だけを持ったり、強くページを開きすぎると、上の本のように表紙と中身がはずれてしまいます。

こうなると本の解体や補強などの専門的な修理が必要です。場合によっては修理をせずに買い替える場合も。

ただし図書館の本の中には、書店等で手に入らないものもあります。みんなで大切に使いしていきたいですね。

## 修理本その4 ( 水ぬれによるシワや変色 )



これは水にぬれた後に適切な処置をしないまま返却された本です。本全体の紙がよれて広がり、ページ同士のくっつきや変色が見られます。

**水にぬれた時は、できるだけ早く本の水分を吸収することが重要です。**

- ①ぬれたすべてのページにそれぞれ吸水用紙をはさめて吸水する
- ②本やページの変形を防ぐために、①の全体に重しをのせる
- ③水分量が多い場合は①②を繰り返す

読むことには支障はないというご意見もあるかもしれませんが。しかし乾いているように見える本でも、すぐに棚に戻せるわけではありません。後にカビが発生し、他の本へも広がることもあるからです。原因を特定できない場合は、そのまま除籍される本もあります。

乾いてしまった後では、もう元の形にもどせません。本をぬらしてしまった時は、早めに窓口にお持ちください。